大好き☆出雲！

よすみちゃん

弥生の出雲王に出会える

出雲弥生の森博物館だより
IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

季刊
第51号
（2023年10月）

★冬季企画展「大社駅の100年」
11月18日（土）～2月19日（月）

1912（明治45）年の大社線開通は、出雲大社の門前町として栄えた大社の町に新しい時代の到来を告げる出来事でした。神門通りが開通し、出雲大社への参詣客が大幅に増加したことから、1924（大正13）年2月には二代目の駅舎が完成しました。1990（平成2）年の廃線まで、たくさんの人を迎え、たくさんの人を見送った大社駅。2024（令和6）年2月に建設100周年を迎える重要文化財「旧大社駅本屋（ほんや）」の歴史をその時代とともに振り返る企画展を開催します。

旧大社駅本屋（修理前）

旧大社駅本屋は、出雲市大社町に所在する旧駅舎で、山陰本線の出雲今市駅（現・出雲市駅）と出雲大社を結ぶ大社線の終着駅として建設されました。

大社線は山陰本線の出雲地方までの延伸に伴い1912（明治45）年に支線として開通し、大社駅も同年運用を開始しました。大正期に入ると、山陰本線のさらなる延伸や瀬戸内と山陰を結ぶ山口線との接続等により、乗降客が大幅に増加したため駅施設の増改築が計画され、初代の駅舎に替わる二代目として1924（大正13）年に新たに建設されたのが現在の建物（建築面積は約二倍に拡大）です。

棟札

現在、重要文化財の指定を受けた駅舎は、旧大社駅本屋、東京駅丸の内本屋（東京都）、門司港駅本屋（旧門司駅・福岡県）の三棟のみです。旧大社駅本屋と類似した構成、意匠の木造和風の鉄道駅舎では旧二条駅舎（京都市）が知られています。旧大社駅本屋は、廃線後も旧地にほぼ建築当初の姿のまま良好に保存され、我が国の鉄道興隆期の地方駅舎の姿をよくとどめる遺構としても貴重であることから、2004（平成16）年7月に重要文化財に指定されました。

今回の企画展では、大社線開通により、神門通りを中心に大きく変貌を遂げた町の様子や二代目大社駅の建設、大社線の盛隆から廃線、そして重要文化財指定から保存修理事業へと続く明治から令和までの歴史を振り返ります。展示の中では、棟札や屋根瓦、貴賓室の調度類など、大社駅にまつわる貴重な文化財のほか、2023（令和5）年1月に工事中に発見された初代駅舎跡の調査でわかったことや新たに発見した写真資料など、現在実施中の保存修理事業の成果もあわせてご紹介します。

（吾郷　誠）

初代駅舎跡

★ギャラリー展Ⅱ

「出雲市大社町・ひろげ遺跡 ―700年続いた火のマツリの場―」

11月1日(水)～2月19日(月)

出雲市大社町の稲佐の浜から日御碕へ向かう海岸沿いに「ひろげの浜」と呼ばれる浜があります。ただし、浜と言っても岩礁性の磯浜です。この浜に面した狭く小さな谷に「ひろげ遺跡」があります。

この遺跡は1996(平成8)年に発掘調査が行われ、15×20mの範囲で弥生時代後期から奈良時代にかけての約一万点もの土器の破片などが見つかりました。複数の焚き火の跡が確認されたことから、マツリの場であったと考えられています。

なぜ、ここが700年以上にもわたって、マツリの場であり続けたのか。この間、弥生から古墳、そして奈良へと時代が変わる中で、その文化も移り変わりがあったと考えられます。それでも変わらなかったものとは。

今回、ひろげ遺跡で見つかった土器を再整理して、さらに詳しく遺跡の様相を検討しました。この展示では、その成果を紹介するとともに、遺跡の性格について改めて考えます。

（髙橋　周）

★速報展

「発見！奈良時代のニュータウン ―結西谷Ⅳ遺跡の発掘調査速報①―」

開催中～1月29日(月)

結西谷Ⅳ遺跡(出雲市斐川町直江)は新工業団地の造成計画に伴い、新たに発見・調査された遺跡です。調査面積は約5000㎡と広大で、多くの成果がありました。今回の速報展では、奈良時代の集落についてご紹介します。

奈良時代の集落は南北にのびる尾根の東斜面で確認され、斜面中腹に少なくとも6棟の掘立柱建物が建っていたと想定されます(写真①)。また、5つの加工段(斜面をL字状にカットして作りだした平坦面)も確認されました。

遺跡からは、須恵器や土師器など大量の土器のほか、ヒスイ勾玉(写真②)といった貴重品も出土しています。土器の年代は、飛鳥～奈良時代(7世紀末～8世紀)に限られ、ここで人間が生活していたのは100年あまりだと考えられます。

結西谷Ⅳ遺跡の周辺では、国史跡出雲国山陰道跡をはじめ、古代の郡衙関連施設と想定される後谷遺跡や稲城遺跡、小野遺跡といった同時期の遺跡が多く確認されています。これらの遺跡における開発の進展により、未開の地に新たな集落をつくる必要ができたのかもしれません。こうしてつくられた結西谷Ⅳ遺跡の集落は、まさしく奈良時代の「ニュータウン」といえるでしょう。

（下江　裕貴）

写真①　奈良時代の掘立柱建物跡

写真②　ヒスイ勾玉(原寸大)

★第55回出雲市無形文化財発表会

11月26日(日)

出雲市内の無形民俗文化財に指定されている神楽や獅子舞など、出雲の誇る伝統芸能が一堂に会し、舞や作品を披露します。普段はそれぞれの地域でしか見ることのできない伝統の技と心を、ぜひ体感してください。

神楽

獅子舞

盆踊り

一式飾り

■時　間　10時～15時30分
（開場　9時30分）

■場　所　平田文化館
プラタナスホール

■入場料　前売り　500円
当　日　600円
中学生以下無料

※10月中旬から前売券販売予定

★よすみちゃんが奈良県でPR活動を行いました！

7月6日、よすみちゃんが奈良県を訪れ、出雲弥生の森博物館や出雲市のPR活動を行いました。

まずは、橿原（かしはら）市の奈良県立橿原考古学研究所附属博物館を訪問。マスコットキャラクター「イワミン」が出迎えてくれ、博物館の案内をしてくれました。

次に訪れたのは、奈良市の国立文化財機構奈良文化財研究所。こちらでは、マスコットキャラクター「キュートぐみ【宮都組】」の「ツゲじい」が出迎えてくれました。研究所の職員の方との名刺交換等も行いました。

よすみちゃんは、今後も出雲市内外問わず、出雲市や出雲弥生の森博物館の魅力を発信するため、積極的に活動します！

（左）イワミン

（右）ツゲじい

★博物館ボランティア募集中

出雲弥生の森博物館では、常設展示室の案内や、勾玉づくりなどの体験教室をお手伝いいただけるボランティアスタッフを募集しています。

ぜひ一緒に博物館でボランティア活動をしてみませんか。

● 募集対象
年齢・性別・経験等不問

● 活動頻度
月1、2回　各回2、3時間
※ご都合のつく範囲で

● 活動内容
・博物館常設展示室の案内
・体験メニュー（勾玉づくり、缶バッジづくり等）指導
・イベント（各種講座、出雲弥生の森まつり等）の補助
・月1回のボランティア定例会（打合せ、企画展解説等）

など

★古文書の森を行く⑯
「お金に困った時は…」

かつて松江藩では「志儀（しぎ）」と呼ばれる仕組みがありました。これは参加者を募って「講（こう）」という集団を作り一定の掛け金を出し合い、参加者が順番を決めて、掛け金の総額を受け取るというものです。

例えば「講」の発起人である「親」と十人の参加者がいて、一人一万円ずつ掛け金を出したとします。くじ引き等で順番を決めて、最初の人が掛け金の総額十一万円を受け取ります。次回は二番目の人が受け取り…と全員が掛け金を受け取るまでこのやり取りを繰り返します。掛け金を受け取るのに保証人や担保が必要であったり、受け取る順番が遅い代わりに利子が付いたりと、「講」によって様々な条件やルールがありました。「志儀」は、まだ銀行の無い時代に確実にまとまった金額を入手でき、貯金を促したり、新しい事業を始めたい人が資金を集めるために利用したりした仕組みでした。

同様の仕組みは全国各地にあり、「頼母子講（たのもしこう）」や「融通講（ゆうづうこう）」などと呼ばれ、その規模や条件も多種多様でした。例えば、二人で一人分の掛け金を出しあい、受け取る金を折半（せっぱん）するケースや、掛け金が数倍になって戻るケースもあれば、民間人だけではなく藩の役人も参加して担保の証明書を預かってもらい、公的な後ろ立てを得るケースなど実に様々でした。

一方でこの仕組みは幕府や藩によるものではないため、明治維新以後も各地で利用が継続しました。土地等を担保に出す際の資産信用に比較的寛容であったため、銀行が全国各地に定着し、「志儀」の仕組みが法的に規制される昭和初期まで各地で利用されました。「志儀」の古文書は、地域の有力者や役人との関係、担保になった物など、当時の地域経済の一端を垣間見ることが出来る物なのです。

（荒川 英里）

志儀の掛け戻し金を受け取った証文。本人の他に保証人2名の名前と押印がある。（出雲市蔵）

★展示のご案内

▼冬季企画展
11月18日(土)～2月19日(月)
「大社駅の100年」

●ギャラリートーク
11月19日(日)・12月3日(日)
※いずれも10時から

●鉄道模型見学会
「大社線が鉄道模型で復活！」
12月23日(土)10時～17時
12月24日(日)10時～15時

●冬季企画展関連講演会
出雲市文化財保護審議会委員講座
①12月3日(日)14時～16時
「出雲への旅―江戸・明治の参詣―」
●講師　岡　宏三　氏
(島根県立出雲歴史博物館専門学芸員)
②1月13日(土)14時～16時
「大社駅の立地論争と神門通りの建設目的」
●講師　山﨑　裕二　氏
(一(公財)いづも財団常務理事(事務局長))
③1月27日(土)14時～16時
「重要文化財・旧大社駅本屋の魅力」
●講師　和田　嘉宥　氏
(米子工業高等専門学校名誉教授)
●受講料　各回300円

▼ギャラリー展
11月1日(水)～2月19日(月)
「出雲市大社町・ひろげ遺跡
―700年続いた火のマツリの場―」

▼速報展
開催中～1月29日(月)
「発見！奈良時代のニュータウン
―結西谷Ⅳ遺跡の発掘調査速報①―」

★講座のご案内

▼館長講座
①10月1日(日)14時～16時
「出雲の歴史と地域文化①
―出雲と畿内王権―」
②11月4日(土)14時～16時
「出雲の歴史と地域文化②
―飛鳥時代の出雲―」
③12月2日(土)14時～16時
「出雲の歴史と地域文化③
―奈良時代の出雲　神と仏―」
●講師　花谷　浩(当館館長)
●受講料　各回300円

※最新情報は博物館ホームページをご確認ください。

▲ホームページ QRコード

講座・講演会の申込について
定員　各80名
事前申込必須(電話・メール・FAX)
●申込受付時間　9～17時
●必須事項　氏名・電話番号
●オンライン配信
氏名・電話番号を記載のうえ、メールで申込。受講料無料。

★館長古来夢(こらむ)

これを書いている8月、台風6号と7号が次々上陸した。台風で一番の恐怖体験は、25年前の98年9月22日の台風7号。

当時、飛鳥時代の「富本銭」鋳造で有名な奈良県明日香村の飛鳥池遺跡で調査をしていた。前の月、ゲリラ豪雨に見舞われ、谷に立地する遺跡は水没。排水すると調査区には大量のヘドロが溜まっていた。バキュームカーを使ってようやくヘドロ除去し、調査を再開したばかりだった。台風7号接近に備え、前回を教訓に十分な手当てをした、はずだった。

9月22日、台風は紀伊半島を北上。すると事務所に村民から一報が。調査区から飛ばされたシートが塀を壊したと。幸い、風雨はやや小康を保っている。状況確認に現場へ出かけると、確かに塀が破損している。現状写真を撮影したのち、調査区の状態を確認しに行く。浸水は始まっていたが前回ほどではない。ベルトコンベアに繋がる電気系統が水損しないよう、分電盤をより高所に移動させていた、ちょうどその時だった。

にわかに強風が吹き荒れ、立っていられない。横殴りの雨も打ち付ける。並べてあるベルトコンベアを覆うシートが風をはらみ、次々とコンベアをなぎ倒していく。さっきの小康状態は「目」に入っていたからか、と気付いたが遅い。

調査区の南には調査後に本稼働する県立万葉文化館建設事務所の2階建てプレハブが建っていた。突然、そちらから「バリバリ」と音が。トタン屋根が飛び、ベニヤ板の壁がちぎれて舞う。南風だからそれらがこちらを襲ってくる。まさに命からがら脱出すると、道路には電線が垂れ下がり、信号機も点滅していない。豪雨で前が見えない中を、なんとか事務所に帰着。人的被害はなかったが、なにせ恐ろしかった。

(花谷　浩)

(発行)出雲弥生の森博物館
2023年10月
〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
https://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
●入館料／無料
●開館時間／9:00～17:00
(入館は16:30まで)
●休館日／火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始